

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 3 月 21 日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	西村修一
研究課題	教員採用選考試験から見る教師に求められる資質・能力について				
研究キーワード	高等学校教育、産業教育	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>2022 年度高等学校入学者から新しい学習指導要領が実施されている。本学習指導要領においては、各教科の科目構成及びその内容が大きく改訂されていることから、高等学校の教師が学習指導を行う上で求められる資質・能力についても変化している。</p> <p>あわせて、Society5.0 に対応して、高等学校の教師には、ICT を効果的に活用し、高校生自身が学びを進められるようにする力を身に付けることが求められている。</p> <p>こうした中、2022 年 12 月に、中央教育審議会から「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」の答申が示された。</p> <p>これらの動きは、教員採用選考試験に反映されることから、教科情報科の選考試験問題を元にして、求められる資質・能力を探求し、次の知見を得た。</p> <p>① 高等学校教育は、高等学校学習指導要領に基づいて実施されるものだが、教科情報科については、都道府県による違いが大きくなっている。</p> <p>② ①の違いは、共通教科情報科の指導に必要な資質・能力を問うことを中心としたものか、専門教科情報科の指導の可否までを問うものとしているかという出題方針の違いによるものと考えられる。</p> <p>③ ICT を効果的に活用して個に応じた指導を行うために必要な資質・能力については、教科情報科の専門教養の試験において問うこととしている都道府県は極めて限られている。</p> <p>④ 高等学校学習指導要領は、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「何ができるようになるか」という視点に立って改善が図られたが、教科情報科の専門教養の試験においては、「何を学ぶか」（教師の立場からは「何を指導するか）」に関わる資質・能力を問う出題が中心となっている。</p> <p>⑤ 「どのように学ぶか」、「何ができるようになるか」に関わる教師としての資質・能力については、教科情報科の専門教養試験で測定しようとしている都道府県は限られていた。こうした資質・能力を身に付けることを求めてないということではなく、筆記試験で問うことの難しさによるものと考えられる。そのため、模擬授業試験を実施している都道府県においては、この試験の中で測定しようとしていることがうかがえる。</p> <p>これらの知見は、今後本学の教職課程及び教員採用選考試験対策講座の一層の充実につなげていく。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>なし</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>なし</p> <p>【学会発表等】</p> <p>なし</p>					

3. 主な経費

上記研究を進めるために、関連書籍の購入や文具代、所属学会の年会費等に使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

なし

(本文は2ページ以内にまとめること)